

## 森美術館

## 「塩田千春展：魂がふるえる」同時開催プログラムのご案内

会期：2019年6月20日(木)－10月27日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、  
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

## MAMコレクション010：フェイクニュース？

企画：近藤健一(森美術館キュレーター)

米国大統領ドナルド・トランプの口癖にもなっている「フェイクニュース」。インターネット上に流れるデマをはじめ、今日、何が事実なのかますます見えにくくなっています。本展では、作家本人が総理大臣に扮し、鎖国の重要さなど独自の外交論を日本語訛りの英語で演説する会田誠の作品や、2014年台湾の学生や市民が国会を占拠したひまわり運動の一場面を記録したユエン・グアンミン(袁廣鳴)の《占領第561時間目》(2014年)などの作品を通じて、マスメディアにおける情報生産の本質について考察します。



会田誠  
《The video of a man calling himself Japan's Prime Minister making a speech at an international assembly》  
2014年  
ビデオ  
26分7秒



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから  
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

## MAMスクリーン011：高田冬彦

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)

高田冬彦(1987年広島生まれ)は、宗教、神話、おとぎ話、ジェンダー、トラウマ、性、BL(ボーイズラブ)といった多様なテーマを扱いつつも、ポップでユーモアのある、時折エロティックな映像作品を制作してきました。自宅スタジオから、大学、野外まで、撮影場所はさまざま、手作り感あふれるセットも魅力です。一見、荒唐無稽なストーリーのようでありながら、社会に対する批評的な一面をもつ高田の作品群を、約1時間のプログラムで紹介します。



高田冬彦 《WE ARE THE WOMEN》  
2013年 ビデオ 24分28秒  
展示風景：「高田冬彦 MY FANTASIA II」  
Art Center Ongoing(東京)2014年



MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、  
歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

## MAMリサーチ007：走泥社—現代陶芸のはじまりに

企画：徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

中村裕太(アーティスト、京都精華大学芸術学部特任講師)

走泥社は、1948年に八木一夫、山田光、鈴木治など京都の若手陶芸作家を中心に結成されました。その成り立ちの背景には京焼の歴史があり、また、具体美術協会やパンリアル美術協会、墨人会や池坊など、同時期に京阪神でみられた前衛的な表現活動との関係がありました。本展では、結成から1960年代までの活動を中心に、伝統と革新の狭間で新しい表現を追い求めた戦後の陶芸家達の活動を振り返り、現代陶芸としての意義を考察します。



《ザムザ氏の散歩》を肩にのせる八木一夫  
京都、五条坂にて、1954年

主催：森美術館 開館時間：10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 \*いずれも入館は閉館時間の30分前まで \*会期中無休

\*ただし10月22日(火)は22:00まで

入館料：「塩田千春展：魂がふるえる」チケットで鑑賞可 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、  
子供(4歳—中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円 \*表示料金に消費税

\*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) \*スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース お問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当：津原、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル